

センターで飼育しているマス類

ヤマメ

Oncorhynchus masou masou



日本とその周辺だけに棲んでいるマス類で「溪流の女王」と呼ばれています。東京都は昭和36年に全国で初めて人工ふ化養殖（完全養殖）に成功しました。

ニジマス

Oncorhynchus mykiss



北米～カムチャッカ付近に生息するマスの仲間で、日本には明治時代に初めて東京都青梅市へ移殖されました。今では全国各地で盛んに養殖されています。

ニッコウイワナ

Salvelinus leucomaenis pluvius



日本の河川で最も上流に棲んでいるマスの仲間で、一時は生息数が激減し「幻の魚」と呼ばれました。当センターでは多摩川上流部にある日原川水系由来のイワナ（ニッコウイワナ）を生産しています。

奥多摩やまめ (全雌三倍体ヤマメ)



バイオテクノロジーによって、成熟せず、3年で2kg以上に成長するように改良したヤマメです。刺身やムニエルなど大型魚ならではの料理で味わうことができます。

施設のご案内

奥多摩さかな養殖センター

<http://www.tokyo-aff.or.jp/syutiku/index.html>

E-mail: okutama@tdfaff.com

〒198-0105

東京都西多摩郡奥多摩町小丹波720

TEL 0428-85-2028

FAX 0428-85-1509

入川飼育池



[施設概要]

- ・事務室 実験室 図書室 会議室
- ・ふ化場 展示室
- ・フレイムハウス稚魚池10面
- ・飼育池16面・沈澱池1面
(総池面積 約1,700㎡)

〒198-0213

東京都西多摩郡奥多摩町海沢53

TEL 0428-83-2149

FAX 0428-83-2226

[施設概要]

- ・事務室 展示室 作業棟
- ・採卵室・ふ化室
- ・フレイムハウス稚魚池7面
- ・親魚池11面
(総池面積 約2,600㎡)

海沢飼育池



交通のご案内



入川飼育池

JR青梅線「古里駅」より青梅街道を奥多摩方面へ徒歩15分
「古里附」を右折徒歩10分

海沢飼育池

JR青梅線「白丸駅」より青梅街道を奥多摩方面へ徒歩15分
「海沢大橋」を左折徒歩10分

(公財)東京都農林水産振興財団

奥多摩さかな養殖センター

あんない



写真 上:ニジマスの発眼卵 下:ヤマメの稚魚

業務内容

種苗生産・配付事業

ヤマメ、ニジマス、イワナ、奥多摩やまめの種苗（卵や稚魚）を生産し、河川漁協（河川放流用）および養殖漁協（養殖用）へ配付しています。



活魚車への魚の積み込み

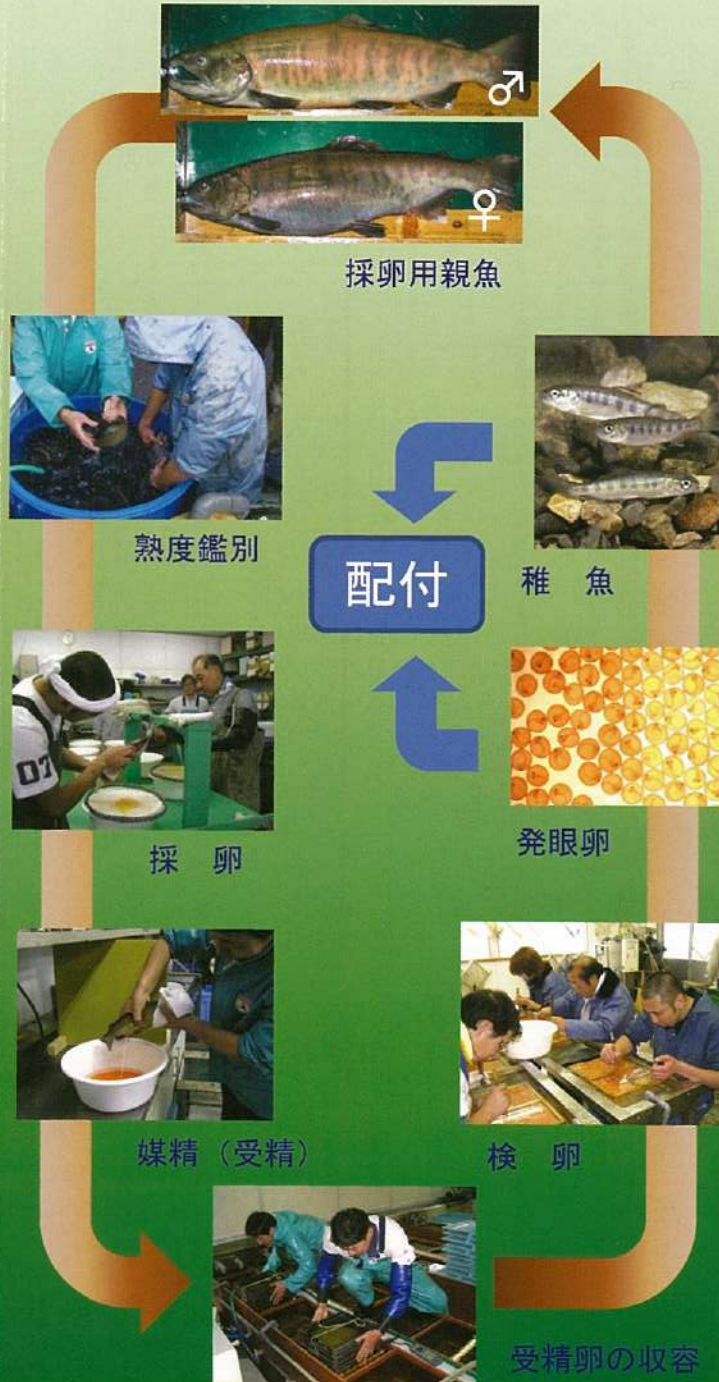


養殖業者への配付

研究事業

- ◆ 冷水魚優良種苗育成試験
 - ・天然魚のような美しい姿をしたヤマメの生産に取り組んでいます。
 - ・奥多摩やまめを中心に、マス類の加工品開発や普及に取り組んでいます。
- ◆ 魚病診断と疾病別対策研究
 - ・センター内で発生する魚病の診断や治療のほか、原因究明と対策方法の開発に取り組んでいます。
- ◆ IHN抗病系品種の作出研究
 - ・養魚経営に甚大な被害を及ぼすIHN（伝染性造血器壊死症）という病気にかかりにくい種苗を作る研究を行っています。

種苗生産の流れ



奥多摩やまめの振興

奥多摩やまめとは？

ヤマメの全雌三倍体魚のことで、東京都では「奥多摩やまめ」の名で呼ばれています。通常のヤマメに比べて寿命が長く大型化するので、刺身やムニエルなどの料理で味わうことができます。また、燻製や干物などの加工品も商品化されています。



奥多摩やまめの作出方法

ヤマメがもともと持ち合わせている染色体を2組から3組にして作出します。この方法は、種なしスイカなどでも実用化されており、安全性に問題はありません。

